

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「詩を朗読してしょうかいしよう」 教材名「詩を朗読してしょうかいしよう」

2 単元の目標

詩の内容や表現の効果を考え、朗読することができる。詩の全体像や表現の効果を考え、朗読で伝えたい印象を言葉を根拠に説明することができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①詩の内容や表現の効果を考え、朗読している。（〔知識及び技能〕(1)ケ）	①「読むこと」において、詩の全体像や表現の効果を考え、朗読で伝えたい印象を言葉を根拠に説明している。（C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

詩の全体像と表現の効果を考え、聞き手へ届けたい印象に合う朗読を選ぶ。声の大きさを競うのではなく、読み方を選んだ本文の根拠を説明する。学習指導要領のC(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)ケを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

児童が選んだ詩の実際の本文で区切りや強弱の案を確かめる。同じ箇所を異なる読み方で試し、聞き手が受けた印象と読み手の意図を比べる。人前で読む負担が大きい場合は小集団や教師への朗読を用意する。おおむね満足できる状況は、詩の全体像や表現の効果を考え、朗読で伝えたい印象を言葉を根拠に説明しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○詩を選び全体の印象と根拠を整理する。区切りや速さを変えて朗読を試す。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○聞き手の感想と自分の意図を比べる。表現の効果に合う朗読を発表する。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

詩の全体像や表現の効果を考え、朗読で伝えたい印象を言葉を根拠に説明することができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「どんな印象を届けたいですか。そのために、どこをどう読みますか」 【めあて】詩の全体像と表現の効果を考え、聞き手へ届けたい印象に合う朗読を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ速さより区切りを置くと意味が伝わる。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「どんな印象を届けたいですか。そのために、どこをどう読みますか」 聞き手の感想と自分の意図を比べる。表現の効果に合う朗読を発表する。 朗読の意図、工夫する箇所のメモ、聞き手の感想と見直した読み方。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ速さより区切りを置くと意味が伝わる。 ・繰り返す言葉の強さを変えてみたい。 ・聞いた人の感想が意図と違ったので読み方を見直したい。	児童が選んだ詩の実際の本文で区切りや強弱の案を確かめる。同じ箇所を異なる読み方で試し、聞き手が受けた印象と読み手の意図を比べる。人前で読む負担が大きい場合は小集団や教師への朗読を用意する。 想定するつまずき：大きな声ならよい朗読と考える、教師の読み方だけをまねる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 詩の全体像や表現の効果を考え、朗読で伝えたい印象を言葉を根拠に説明している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・聞いた人の感想が意図と違ったので読み方を見直したい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「どんな印象を届けたいですか。そのために、どこをどう読みますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

